

神戸市立押部谷小学校 学校評価報告書

校長

記入者 教頭

神戸の教育が目指す人間像		教育ビジョン		神戸が目指す これからの学校の姿		
心豊かに たくましく生きる人間		自他を大切に 自ら考え 未来をつくる		人がつながり ともに創る みんなの学校		
り学 の校 目 づ く	保護者・地域と三位一体となり、子供たちが幸せな学校に					
内容		重点的な取組み	評点 (4段階)	特記事項 (学校自己評価)	関係者評価 (学校自己評価に対する学校運営協議会の意見等)	学校自己評価、関係者評価を踏まえた 次年度の重点的な取組みの案
育 て た い 子 ど も の 姿	ひとりひとりを大切に し たくましく 心豊かな子を育てる					
	【やる気まんまん】 ○自分の考えをもつ子 ○自分の考えを進んで表現する子 ○粘り強く自らの学びを進める子	職員研修のテーマを「自分の考えをもち、表現する力を伸ばす授業をめざして」に設定し、よりよい授業づくりに取り組む。スピーチ力の育成に取り組む、6年生は、朝会でスピーチの実践を行う。	3	授業の中での発言は増えてきている。タブレットを用いた学習では、自分の考えを書ける児童が増えてきた。一方で、よくしゃべるが、話をきちんとできているかについては課題が残る。スピーチ力の育成については、実践の検証を行った。	スピーチした子に拍手するなどのアクションがあってもよいのではない。スピーチの発表は、学年を広げるなど、機会を増やしても良いかもしれない。ICTの活用で、みんなが自分の答え（思い）を出せている。自ら挙手して発言するのはハードルが高いので、とても良いと思う。	スピーチ力の育成については、学年ごとにどのように力をつけていくか、系統的に整理する。また、タブレット等を活用した個別最適な学びについて研修を行っていく。
	【元気もりもり】 ○心と体を鍛える子 ○失敗を恐れず解決に向けて協働する子 ○何事にも力いっぱい挑戦する子	失敗を恐れずに挑戦しようとする気持ちを育むための授業づくり、学級づくりを行う。また、外遊びの励行、体育授業の充実（合同体育の実施など）を進めるなどして、体力づくりに取り組む。	3	異学年で行う合同体育を取り入れた学年は、運動量が増えたり、上の学年の姿を見て目標にしたりなど、高い効果が見られた。外遊びを奨励しているが、冬になると外に出る子が少なくなった。「失敗を恐れず解決に向けて協働する子」については、これからも取り組みが必要であると感じる。	体力向上の課題については、子供たちがいろいろなことで楽しめるようになった弊害ではないか。ゲーム・スマホ・TV・ネットなどいろいろあり、外で遊ぶしかなかった時代と違う。ボールの禁止など遊ぶ場所の問題もある。	体力向上の課題については、体育授業の中での体力アップにつながる活動や展開の工夫、異学年で行う合同体育の充実など、授業内容の見直しを進めていく。
	【笑顔いっぱい】 ○優しい言葉遣いのできる子 ○相手の気持ちを大切にできる子 ○協力してともに高め合う子	学期初めのあいさつ運動などを通して、あいさつのあふれる学校を目指す。丁寧な言葉遣いや温かな言葉かけを推奨し、気持ちの良い友達関係づくりを育む。	4	委員会活動で計画した児童集会や、休み時間に異学年で一緒に遊ぶことで、自然とみんなで遊ぶことができていた。あいさつはできていると思うが、「誰とでも」がよりできるように取り組みを進める。	PCの活用で、友達の考えを参照しやすくなっているのが良い。教室訪問では、小さい子の目がきらきらしていた。どんな子もいる。学校生活が充実している証拠。	あいさつについては、今後も取り組みを進めていく。授業で友達の考えを参考にしたり、話し合ったりする活動を取り入れていくなど、より協働的な学びを推進していく。
必須 テ ー マ	①いじめ防止対策に関する取組み	定期的に会議をもち、各学年の児童の様子、友達関係等の共通理解を図る。いじめアンケート、日常の子供たちの様子の観察により、いじめ防止に努める。指導や対応は、複数の職員で行うことを基本とする。	3	必ず月に一度は各学年の状況を共通理解し、何かあれば組織的に対応した。日常的に子供の様子を観察し、いじめの防止に努めた。また、いじめアンケートを学期に1回行い、児童の様子を細かに観察し、早期発見に努めた。	学校以外（児童館など）でも児童のトラブルはあるが、学校も連携して対応してくれている。小さな学年は個性も豊かだが、上の学年の子供たちが思いやりの目で見てくれているように思う。	小さなトラブルのうちから丁寧に対応していき、大きなトラブルを未然に防ぐよう取り組みを進める。校外の事案に関しては、青少年育成協議会などと連携し、地域全体で児童を見守れるように取り組んでいく。
	②不登校支援の取組み	担任以外の教職員や、スクールカウンセラーとも児童の状況を共有し、対応について家庭や関係機関と連携を進める。校内サポートルームを設置し、活用を図る。	4	ゆったりルーム（校内サポートルーム）を開設して、スクールカウンセラーとも積極的に情報の共有を図った。学習のつまづきから不登校傾向にならないよう、算数の複数指導などを行った。	「ゆったりルーム」はどのような状況でどのように運営されているのか。（人は配置できているのか）子供が安心できるので良いと思うが。	他校の実践事例を参考に「ゆったりルーム」の運営方法などを改善していく。保護者や児童がカウンセラーと関わりやすくなるよう、「ゆったりルーム」を活用したり、カウンセラーの活動を広報したりする取り組みを進める。
	③教職員の業務改善	クラブ・委員会活動を月曜に変更することで水曜日6校時のカットを行い、研修の時間を確保した。諸連絡の時間を水曜日の研修前、金曜日の放課後の2回にし、連絡漏れの無いようにした。また、校舎施設を職員で分担した。	4	水曜日を5校時までとし、研修や会議の時間を確保することで、学校運営にゆとりが生まれた。連絡調整の時間の確保、パソコンの掲示板、入力依頼フォルダの活用で時間短縮を行いつつ、連絡漏れのないように取り組みを行った。全職員での校舎の施設は軌道に乗ってきている。		業務の量を削減するだけでなく、よりよい教育活動が行えるよう、これからも全職員の共通理解のもと、業務改善を進めていく。
	④保護者・地域への情報提供・発信（すぐる活用、ホームページ等）	ホームページを毎日更新し、学校の取り組みをできるだけリアルタイムに情報提供する。すぐるのアンケート機能を適切に活用し、保護者の意見の集約を図る。また、紙媒体からデジタルへの移行を図っていく。	4	ホームページで普段の子供の様子を積極的に発信することはできた。これまで紙で配付していた会計報告をすぐるで発信し、デジタルへの移行を図った。	たくさん更新があり、学校の様子が分かってありがたい。	ホームページ、すぐるを利用した情報発信については、これまでの取り組みをこれからも継続していく。

【評価】 4：十分達成できた 3：おおむね達成できた 2：どちらかと言えば課題がある 1：課題がある